2009.10.30 〈13〉

朝日新聞（夕刊）　新聞定価 朝夕刊月ぎめ 3,925円(本体価格 3,738円、消費税 187円)、1部売り(税込み)朝刊 130円、夕刊 50円　第3種郵便物認可

「宿泊所」再起阻む

残金2万円 就職活動できず

家族来訪制限「囚人のよう」

厳しい雇用情勢が、「貧困ビジネス」の標的となる失業者を生み続けている。生活保護費の大半を差し引かれる「無料低額宿泊所」などの被害者には、派遣切りで職と住まいを同時に失ったり、家賃滞納を理由に「追い出し屋」から強引に部屋を退去させられたりした人もいる。世間から遮断された宿泊所で、再就職の道が阻まれる事態を食い止めようと、法律家や支援者らの模索が続く。

（笠矢英樹、清川卓史）＝1面参照

無届け施設のアパートで過ごす元支店長の男性＝堺市内

■派遣切りで退寮に

「とにかく仕事と部屋がほしかった」。3月末、愛知県東部の宿泊所に入所した元派遣社員の男性(45)が、胸の内を絞り出すように話した。

山口県内のマツダ工場で働いていたが、派遣切りに遭い、昨年末に寮を追われた。トヨタ関連の職場を求め、その足で愛知へ。職はなく、今年2月に所持金も尽きた。ホームレス状態になり、生活保護を申請。市の窓口で紹介されたのが宿泊所だった。

「布団で眠れる」。そんな安心もつかの間だった。月額11万円台の生活保護費は家賃や管理費などの名目で引かれ、約4万円しか残らない。夏から宿泊所は社会福祉法上の無料低額宿泊所となり、朝食と夕食が出されるようになったが、その分、食費も差し引かれ、手にする保護費は2万円を切った。「求職しようにもバス代もない。採用面接の連絡すらできなかった」

この宿泊所は、人材派遣業や不動産業などを営む業者が社員寮の空き部屋を転用していた。担当者は「不況下の救済的事業」とビジネスの意義を強調する。

派遣の仕事を探そうとして、そのまま入居にいたった失業者もいる。

「今日からでも仕事がしたい」。元建設会社従業員の男性(54)は6月、この業者の事務所に飛び込んだ。「派遣スタッフ募集」の看板を見たからだ。建設不況で年明けから仕事が週1回にまで減り、家賃を滞納。5月から車で寝起きした。残金は800円。わらにもすがる思いだった。

業者の勧めで、7月から生活保護を受け、宿泊所に入った。だが、友人や家族の自由な訪問は禁止され、「囚人のようだった」。求人誌も求人情報を調べるパソコンも見たことがなかった。

「こんなところにいたら、自立できない」。危機感を募らせた2人は10月、相談した弁護士の協力で施設からアパートに転居できた。

■「追い出し屋」被害

堺市内の無届け宿泊所で5年近く暮らす元銀行員の男性(59)がため息をついた。「この年齢までむだな時間を過ごした」

金融機関の元支店長。約10年前に糖尿病を患って退職し、飲食店開業をめざしたが、挫折した。アパートの家賃を滞納し、家賃保証会社に鍵を交換される「追い出し屋」被害に遭った。

大阪市内のサウナや路上で夜を明かしていた04年秋、不動産業者の勧誘で宿泊所へ。生活保護を申請したが、家賃や朝夕の食事代などが保護費から天引きされ、残金は月約3万円。光熱費や屋食代を払うと生活はぎりぎりだった。

最初の約1年は電車代をためてハローワークに通い、新聞の求人案内も調べていた。だが、携帯電話すら持てない中高年はどこの企業にも相手にされない。次第に求職の意欲を失った。追い出し屋被害を相談した弁護士らの支援で今年7月、業者との契約を一部解除し、保護費約8万円を手にすることができた。

貧困ビジネスの被害者支援に取り組む普門大輔弁護士（大阪弁護士会）は「2万～3万円程度の生活費で就職活動をするのは不可能で、結果的に宿泊所から抜け出せなくなる。こうした貧困ビジネスが失業者の再就職の障壁となっており、国は監視を強化すべきだ」と指摘する。

現役世代 入所者の7割

宿泊所ビジネスに失業者が取り込まれる背景には、仕事と住居を同時に奪われる「ハウジングプア」（住まいの貧困）の広がりがある。

厚生労働省が30日公表したデータによると、昨年10月から今年10月までに解雇や雇い止めなどで職を失った派遣・請負などの非正規労働者で、住居の有無がわかったのは約13万5400人。このうち、約3400人（2・5%）が住居を失っていたという。

厚労省によると、生活保護世帯に占める65歳未満の稼働年齢層の増加も目立つ。6月末現在で約15万3千世帯と前年同月比で32・2%増だった。

こうした中、無料低額宿泊所の入所者数も6月末現在で1万4089人と前年同月比で9%増えた。年齢別でみると、40～64歳8749人、39歳以下1100人で、現役世代が全体の7割を占めている。

キーワード　宿泊所をめぐる貧困ビジネス

社会福祉法に基づき、自治体への届出が必要な「無料低額宿泊所」などで、生活保護費から高額の食費や管理費などを徴収される入所者が後を絶たず、社会保障制度の不備に乗じた商法と批判されている。厚生労働省の調査では、無低宿泊所は全国に4,339カ所あり、うち31施設は契約もせずに入所者の金銭を無断管理。自治体に届け出ない法定外の施設も1437カ所あった。

保護の少女に淫行容疑

児童相談所 非常勤の和大生逮捕

和歌山県子ども・女性・障害者相談センター（和歌山市）で保護されていた少女にみだらな行為をしたとして、が、少女との面識はなかったという。

当日は少女を含む男女計9

と 深まる秋

甲高山植物園で、リンドウが見、西畑志朗撮影。紅葉が始まっ揺らすススキと並び、色鮮やかかけている。訪れた人たちは、平まりゆく秋を堪能していた。リ陵地に咲く多年草で、日差しの頃は今週末ごろまでという。問078・891・1247）。

降車した男性 はねられ死亡

奈良・南阪奈道路

30日午前1時55分ごろ、奈良県葛城市太田の南阪奈道路の奈良行き車線で、タクシーから一時的に降りた同県橿市栗殿の会社員春田賢二さん(25)と同県橿原市菟本町の会社員東出智浩さん(27)が、和歌山市野崎の運転手西川弘さん(36)運転のトラックにはねられた。春田さんは全身を強く打って死亡、東出さんは腰に軽傷を負った。

奈良県警高速隊によると現場は片側1車線の直線道路。春田さんらが気分が悪くなったため、タクシーが非常駐帯に停車したところ、2人が走行車線側へ歩いて行き、トラックにはねられたという。春田さんと東出さんは友人と3人で大阪市内で飲食後、タクシーで帰宅する途中だったという。事故の影響で葛城IC～弁之庄ランプ間が約2時間半通行止めになった。

逃走し4台事故 逆走容疑者逮捕

大阪、2人けが

30日午前2時50分ごろ、大阪府豊中市名神口1丁目の道で巡回中のパトカーが対向車線を逆走している乗用車を発見、停止を求めた。乗用車はそのまま逃走し、午前3時ごろ、約3・3キロ離れた大阪市淀川区野中北1丁目の国道176号で右側壁に衝突して止まった。対向してきたトラックが乗用車に衝突して横転し、さらに後続のタクシー